29 キッチンとバス

習慣というのは、おもしろいものだ。イギリスでは、ハンカチは、鼻をかむもので、けっして手を拭くものではない。だから、日本的に、ハンカチで手を拭いていると、きっとイギリスの人にとっては、印象が悪いのだと思う。トイレに入ると、トイレット・ペーパーの先が、向こう側から垂れていることがよくある。つまり、逆に回転させて使うことになるのだが、なぜそうするのか、理由はよくわからない。

キッチンやバスも、そうした習慣に支配される要素が多い。普通の日本人で、イギリスの伝統的なキッチンやバスを、使いやすいと思う人は、まずいないだろう。第一に気になるのは、流し。狭いのと、水道の蛇口の先が縁に近すぎるのと、そして湯と水が別の蛇口から出る。もちろん、新しいキッチンでは、必ずしもそうとは限らないが、こういうタイプのものが多い。理由はなぜかというと、流しに水をためて、そこに洗剤をいれて食器を洗うからだ。広すぎると水をためるのに時間がかかるし、洗剤が多く必要になる。蛇口の先が、食器を洗うのに邪魔になるから、できるだけ縁に近づけてあり、湯と水をためて使うのだから、別々の蛇口で、何の問題もない。では、すすぎはどうするのか。答えは、あまりきちんとすすがない、ということのようだ。この光景を目撃してしまうと、留学生の若い女性など、相当にショックを受けるようだ。チョーク地帯では、洗った後のグラスなどに水滴が残ると、石灰が水滴の形で残り、あまり美しくない。洗剤が少し残っていると、界面活性剤のおかげで水滴にならず、きれいに見えるという効果があるのかもしれない。

伝統的なバスは、バスタブに湯をためて使うもので、一般家庭では、シャワーがついていないものも少なくない。湯は、バスタブに２回ためられるほど多くは沸いていないのが普通だ。では、どうするのか。長く留学している人が、典型的な男子学生の風呂の入り方を教えてくれた。シャンプーの後、鼻をつまんで頭までつかるというのだ。それでは、出るときにはどうするのか。それは、食器といっしょで、少しぐらい石鹸が残っていても、気にしないということ。これも、とくに若い日本人女性には、耐え難いことに違いない。

もちろん、最近はシャワーが普及しており、宿だと、普通はシャワーがつい

図 1　イギリスの流し (著作権フリー)

ている。だが、シャワーはあっても、適当な温度の湯が、そこそこのパワーで、ふんだんに出るということは、めったにない。そういうわけで、民宿を泊まり歩く場合などは、バスだけは、どうしても我慢が必要だ。体がホカホカに暖まれるケースは、残念ながら 1 割もないかもしれない。それがどうしてもいやな場合は、それなりのホテルに泊まらざるを得ないが、それでも快適かどうかは保証の限りではない。

このように、イギリスのバスには、いろいろと不満が多いが、逆の場合も考えてみよう。イギリスの人たちが、日本の風呂を使う場合だ。なによりも、みんなが同じ湯を使うということで、当然前の人の残したものが湯に浮いており、これは石鹸が残るなどということ以上に耐え難いことに違いない。共同浴場にいたっては、それこそ留学生の女性など、想像を絶する世界だろう。同じ女性とはいえ、体格や髪の色の違うイギリスの人が入ってくれば、視線が集まるのは、容易に想像できる。東南アジアから日本に留学している若い女性が、共同浴場について、「あんなのは世界中で、日本だけですよ」と言っていた。

最後に、風呂に入る頻度だが、少なくとも男子学生は、決して多いとはいえない。みんなが毎日バスを使えば、寮のあのバスの数ではとても足りないはずだ、というのが、ある知人の説。だが、日本人は、世界的にみれば、少し不潔恐怖症にすぎるのかもしれない。

1997　新納泉　　著作権フリー